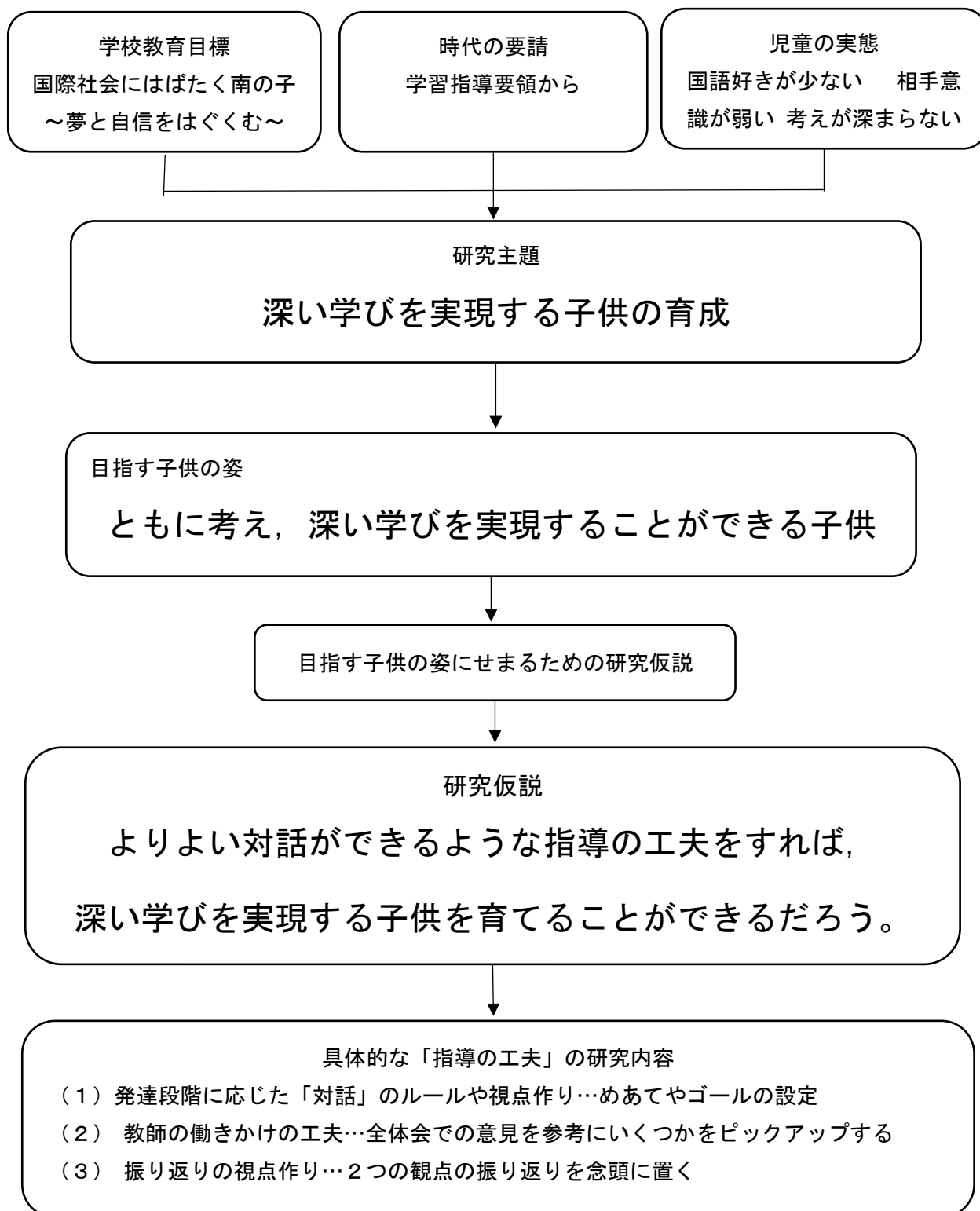


## 令和5年度 萱田南小学校 国語科研究の概要

## 1 研究の全体構想



## 2 研究主題

### (1) 研究主題

# 深い学びを実現する子供の育成

### (2) 主題設定の理由

これまで本校は「伝え合い」を中心に、「共に考える学習」について研究を進めてきた。子どもたちは、自分の考えをもち、話し合いやプレゼンテーション活動などにより、自分の考えを伝え合いながら学習していく姿がみられるようになった。ICT 機器の活用等を通し、自分の知識を増やし、学習に生かすこともできている。しかし、得られた知識以上は考えを広げることができず、相手意識も弱い。そのため、他者との関わりの中で自分を見つめなおし、さらに自分の考えを深めていくという、一歩進んだ学びをすることができていないのが現状である。

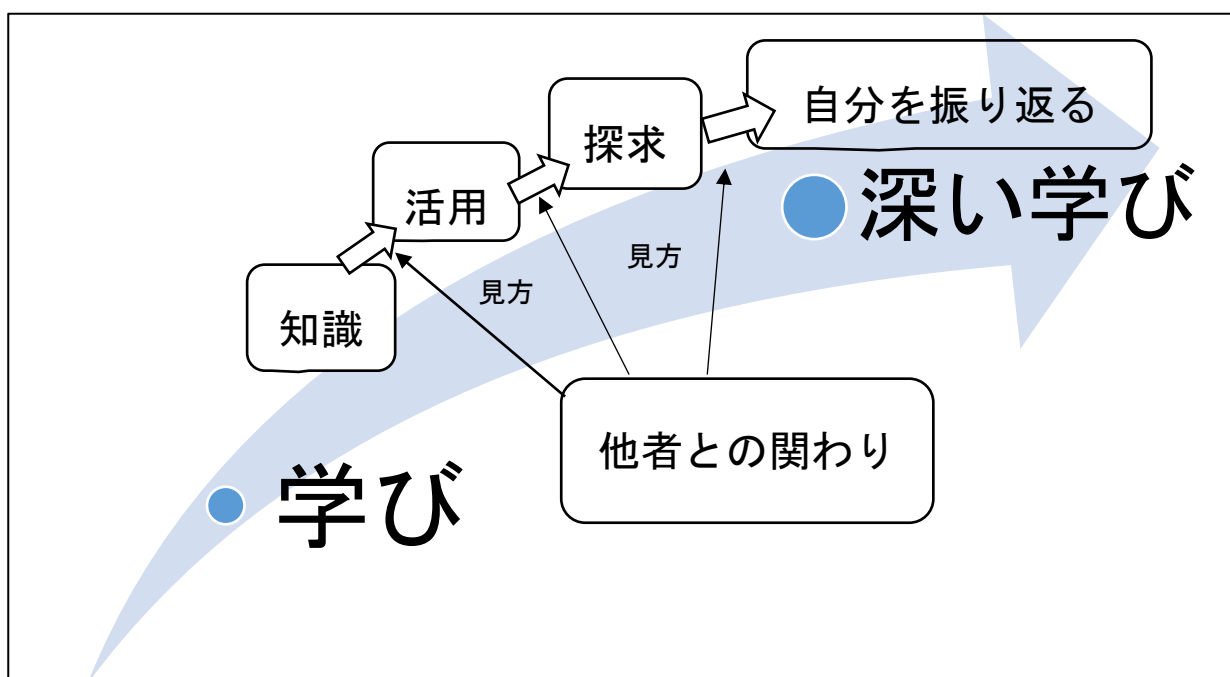
そこで、国語科の学習を通し、深い学びを実現する子供の姿を目指し、本主題を設定した。

### (3) 本校がとらえる「深い学び」とは

学びとは、知識を習得することにとどまらず、それを活用し自ら探究しようとすることで深めることができる。知識を理解し記憶していくことももちろん重要だが、そのことを通し、対象に対する見方を形成し、その知識や経験を自分で振り返ることで自分のものにしていくことこそ、深い学びだと考えるからだ。

また、他者（自分以外のものも含む）と一緒に学んだ方が、学びが深まると考える。自分一人で分かったつもりになっていても、他者に説明してみたらうまく言えなかった、他者の話を聴いたら自分の気づかなかったことが分かった、そうした他者との関わりを通して学びが深まると考えるからだ。

そこで、「深い学び」を実現できる子供たちを育てたいという願いから、本主題を設定した。



### 3 めざす子どもの姿

上記の研究主題を受け、萱田南小学校が目指す子どもの姿を以下のように設定する。

#### ともに考え、深い学びを実現することができる子供

「とも」に考えるとあえて平仮名表記にし、3つの意味をもたせた。

##### (1) 共に考える

これまでの授業では、教師からの発問に対して、受け答えをする場面が多かった。この場合、答える児童と教師で対一の関係になりやすく、ほかの児童は傍観者になってしまう。この状況を改善して、より主体的に学ぶために、児童同士が「共に」考えるという姿を目指す姿とした。

##### (2) 友と考える

「考える」とはどのような姿なのか、似た意味をもつ、「思う」と比較しながら示す。

右表の例文からわかるように、考えるとは、論理的・継続的な意味をもつ。自分の感情に任せて児童同士が関わっても、一時的であり、言動に変化がでるわけではない。「共に」考える結果、日常的なコミュニケーションに変化が起こることを期待している。自分の視点だけではなく、相手からの視点

思 う	考 える
感情的 ○：うれしく思う ×：原因を思う	論理的 ×：うれしく考える ○：原因を考える
一時的 ○：誰かと思ったら… ×：思う時間を下さい	継続的 ×：誰かと考えたら… ○：考える時間を下さい

で考えてみようとする、なぜ相手がそう言っているのか背景を考えようとする、なぜ相手は自分と正反対の意見なのかを考えようとするなど、国語科の実践を通して、「友と」考えることが児童の変容につながっていく姿を目指す姿とした。

##### (3) 伴に考える

「共に」考え、「友と」考えることを大切にしていけるわけだが、子供たちにすべて任せるというわけではない。例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するかなど、子供が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。教師に伴走してもらいながら、適宜指導や助言をもらい、深い学びを実現していける姿を目指す姿とした。

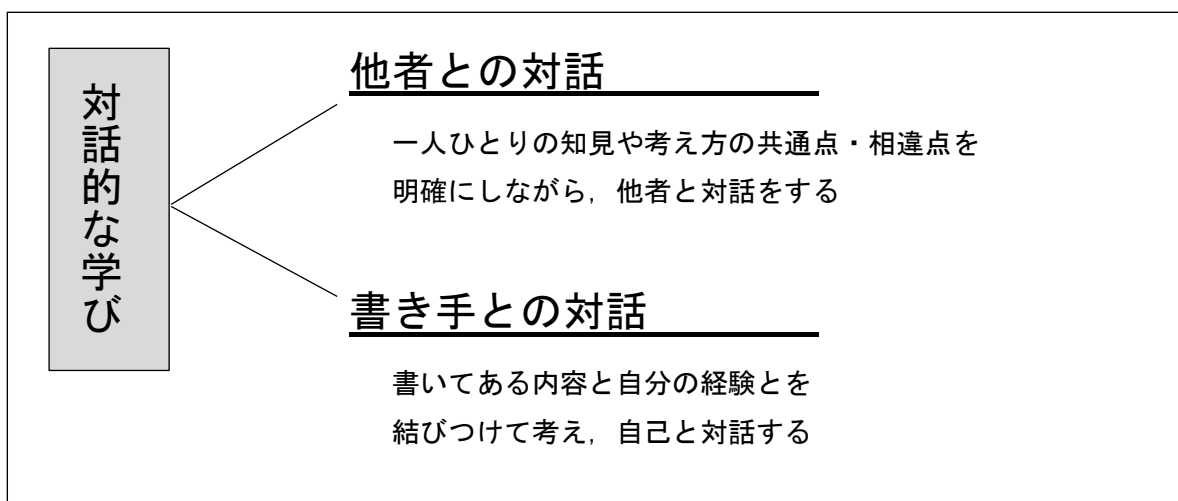
## 4 研究仮説

自分の思考を整理して意識化し再構築していくための1つの方法に、対話がある。萱田南小学校では、深い学びを実現するために、よりよい対話ができるようにしていくことが目指す子どもの姿に近づく一歩になると考え、以下のような研究仮説を設定した。

よりよい対話ができるような指導の工夫をすれば、  
深い学びを実現する子供を育てることができるだろう。

### (1) 本校での「対話」の捉え方

国語科における対話的な学びを実現するためには、「他者との対話」と「書き手との対話」を行う言語活動を行う場面を、計画的に設けることが重要である。



これらのことを踏まえ、本校の研究における対話は「自分との対話」「子供どうしの対話」「教師との対話」「地域の方や外部の方との対話」「教材との対話」など、幅広くとらえた対話を指すこととする。単に事実や自分の思いを伝え合うだけではなく、自分の考えを明確にしたうえで、考えの違いに気付いたり、答えを導き出したりすることを「対話」と捉えているからだ。

### (2) なぜよりよい対話をする必要があるのか

日常生活を行う上で、会話は必要不可欠である。「会話」と「対話」は何が違うのだろうか。

会話…明確な目的やゴールはない。言葉を交わしていても、その意味を共有することまでできていないため、認識のずれ違いがおこり、コミュニケーションに問題が生じることがある。

対話…何かしらのテーマに基づいて互いの意見を述べ合う。自分の行動や発言のもとになる感情や考え方、価値観などについて掘り下げて語る。自分でもあまり意識することのないものを言語化し、相手の言葉と同じ次元に並べ客観的にみていく。

上記のように言うことができる。つまり、対話をすることで、コミュニケーション不足の解消や、

自分の考えを深め、相手の価値観を理解しようと努力し始めることができるといえる。国語科の学習を通して、よりよい対話ができるようになってくれば、より人生を豊かに生きることができると思う。

## 5 具体的な研究内容

### (1) 発達段階に応じた「対話」のルールや視点作り

年間の実践を通して、検証と修正を行い、萱田南小学校の対話ルールとスタイルを確立する。この場合の「対話」は、子供同士の対話をさす。現時点での対話ルールは以下のとおりである。

低学年の対話ルール	中学年の対話ルール	高学年の対話ルール
<p>ペアから始めグループへ (ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●気軽に話せる内容から</li> <li>●簡単なルール作り               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2人とも話す</li> <li>・ 黙っている時間をなくす</li> <li>・ 相手を見て話す</li> <li>・ しっかり聞く</li> </ul> </li> </ul> <p>(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●簡単なルール作り               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 間違ってもいいから話す</li> <li>・ しっかり聞く</li> <li>・ 順番に話す</li> </ul> </li> </ul>	<p>グループ対話に重点を置き、思考を広げ深める</p> <p>(対話前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えをもつ</li> <li>・ 自分の考えをノートにメモ</li> </ul> <p>(対話中)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順番に話す</li> <li>・ しっかり聞く</li> <li>・ 友達の考えと自分の考えを比べる</li> <li>・ 似ているところと違うところを考える</li> </ul>	<p>学級全体の対話に重点を置き、思考を深め高める</p> <p>(グループから全体へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループの考えは〇〇です。理由は…という話し方をする</li> <li>・ 同じところと違うところを考える</li> <li>・ 〇〇の考えに賛成・違います。などつなげる言葉を使う</li> <li>・ 例えば、つまりという言葉を使って、考えを言う</li> </ul>

### (2) 教師の指導の工夫 ～よりよい対話ができるような指導の工夫～

萱田南小学校の研究の蓄積を生かしつつ、検証と修正を行う。

#### ○対話そのものについて

- ・ 対話の流れの指導
- ・ 対話のルールや方法の指導
- ・ 対話モデルの提示
- ・ 対話の視点の明確化
- ・ 対話のめあての提示
- ・ 対話の場の工夫
- ・ 意図的なグループ編成
- ・ 聞き方・話し方名人の徹底
- ・ 話す力のスキルを高める
- ・ カンファレンスの活用
- ・ 質問カードの利用
- ・ 対等な立場作り

#### ○指導計画

- ・ 単元のゴールを工夫
- ・ 発展学習の工夫
- ・ 身につけさせたい子供の力の明確化
- ・ 指導計画の工夫
- ・ 振り返りの視点の提示

#### ○教師の指導

- ・ 一人一人が自分の考えをもてるような発問の工夫
- ・ 複数の意見を統合して高める工夫
- ・ 対話したい、思わず話したいと思うような学習問題作り

#### ○その他

- ・ ICT 機器の活用
- ・ 思考ツールの工夫
- ・ ワークシートの工夫

### (3) 振り返りの視点づくり

学習指導要領において、振り返りの重要性が言われている。国語科の授業における振り返りでは、

- ・子どもが自らの学習課題の学びの過程を振り返る
- ・他者との対話においてどれくらいの対話的な学びができたか振り返る

の2観点からの振り返りが大切になってくる。萱田南小学校独自の対話における振り返りの視点を、示し、検証と修正を行い明確にしていきたい。現時点での他者との対話における振り返りの視点は以下の通りである。

- 1 友達の考えをしっかりと聞くことができたか。
- 2 自分の考えとの共通点、相違点を考えながら聞くことができたか。
- 3 自分の考えを理由や根拠を挙げて話すことができたか。
- 4 つなげる言葉を言ってから話すことができたか。
- 5 自分とは違った見方、新しい考え方を知ることができたか。
- 6 グループの話し合いでたくさん発言できたか。
- 7 グループ同士の話合いで発言できたか。

## 6 検証方法

### (1) アンケートによる意識調査

- ・1学期授業研究前による全校一斉調査（部会ごとに内容を検討する）
- ・授業研究後による全校一斉調査

### (2) 感想による思考・表現の変容の見取り

- ・初発の感想と単元途中及び終末の言語活動の内容比較

### (3) 振り返りによる対話における視点の変容の見取り

## 7 研究体制

### (1) 校内組織

<b>全体指導</b> 校長・教頭		
<b>研究推進委員会</b> 校長・教頭・教務主任 研究主任（川崎 美樹 ） 上学年部会長（ 田村美智子 ） 下学年部会長（ 高瀬 沙恵 ）		
【下学年部会】		【上学年部会】
下学年 にこにこ学級 8名	役割分担	上学年 専科教員 9名
下学年部長：田村美智子(1-2)	<b>運営・計画</b> 部会計画作り	上学年部長：高瀬 沙恵(4-2)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 央戸舞 (1-1)</li> <li>・ 足利理華子 (2-1)</li> <li>・ 矢野郁香 (2-2)</li> <li>・ 西川奈保子 (3-1)</li> <li>・ 朝比奈美海 (3-2)</li> <li>・ 佐々木真弓 (にこにこ 1組)</li> <li>・ 長谷川香奈子 (にこにこ 2組)</li> </ul>	<b>講師関係・役割分担</b> 講師が来た時の役割分担 通りに動けるようにする 声掛けを行い調整する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風張敬 (4-1)</li> <li>・ 坂梨昌子 (5-1)</li> <li>・ 小笠原由也 (5-2)</li> <li>・ 三友健太郎 (6-1)</li> <li>・ 向井智代 (6-2)</li> <li>・ 片野広喜 (6-3)</li> <li>・ 湯浅久仁恵 (音楽専科)</li> <li>・ 川崎美樹 (算数専科)</li> </ul>
	<b>調査・統計・記録</b> アンケート・意識調査の実 施計画・印刷・集計方法の 検討	

### (2) 講師の先生

八千代市教育委員会指導課 指導主事 平澤 祐子先生

### (3) 主な研究日程

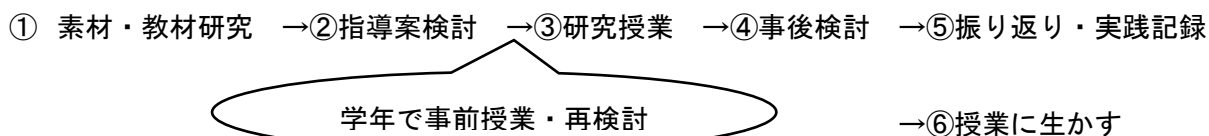
- ① 前期            理論研究と子供の実態把握を行う。指導の重点項目の設定と授業の見方の共通理解。教科書等の教材研究。指導案をもとに部会で検討するとともに、講師から指導・助言を受け、授業研究に取り組む。
- ② 夏季休業      夏季休業前の実践等を振り返り、9月からの授業改善に取り組む。部会ごとの共通理解事項の再検討と確認。主に研修に努める。
- ③ 後期            指導案をもとに部会で検討するとともに、講師から指導・助言を受け、授業研究に取り組む。今年度の研究の成果と課題をまとめ、次年度の計画を立てる。

### (4) 萱田南の研究・研修の4本柱

- ① 研究… 国語科の研究
- ② 研修… 実技研修・ミニ研修
- ③ 初若年研
- ④ 日常的な授業研修

## 8 授業研究のもち方

### (1) 授業研究の流れ



### (2) 授業研究は学年2回（資料2の日程表参照）

- ・ 前期に学年で1つの単元に取り組む。学年で1人が研究授業を行い講師指導を受ける。後期にも学年で1つの単元に取り組み、前期とは違う1人が研究授業を行い講師指導を受ける。講師指導を受けない方の先生も、同時間の授業を行い、修正したり改善したりすることをして研究授業に生かす。
- ・ 指導案を年間で1本、必ず自分の力で書き上げる。
- ・ 自分の部会の授業はすべて見る。（他部会の授業は、見られる人はできるだけ見るようにする。45分見る必要はない。）
- ・ 3クラスの6年生は、前期に1人、後期に2人授業研究を行う。
- ・ 特別支援学級の授業研究は、前期（9月）に行う。
- ・ 専科教員の授業研究は、後期（1月）に行う。

### (3) 上学年・下学年が同じ日に行う

- ・ 市教委の先生を、必ず木曜日にお呼びできるわけではない。木曜日に授業研究を行うならば、14:50から事後検討の時間をとれるので問題ないが、木曜日以外に授業研究を行う場合は右記のように事後検討の時間をとる。
- ・ R5年度の5時間の学年  
月曜日 1～3年生  
火曜日 1年生 水曜日 ×  
木曜日 1～6年生 金曜日 1～2年生
- ・ 上学年と下学年の授業研究の日を同じにし、先生方の動きをわかりやすくする。

例：月曜日に授業研究を行う場合  
4校時 1年生の授業研究  
5校時 5年生の授業研究  
低学年下校後 14:50～  
低学年の事後検討  
高学年下校後 15:40～  
高学年の事後検討

### (4) 年間1回は物語単元で

- ・ 学年によっては、物語の単元が授業研究の時期とあわない場合がある。1回は物語の単元で行うが、どうしても物語で行うのが難しい場合は、説明文の単元でもよい。

### (5) 講師は市教委の先生

- ・ 特別支援学級の講師の先生は、要相談。
- ・ 専科教員の講師はよばない。